

日本共産党区議会議員  
Japanese Communist Party

# 安藤たい作

## ニュース 第16号

## 日本共産党区議団の区政アンケートに返答続々

# 命と暮らし守り貧困と格差ただす 自治体の役割が求められています



先日きゅりあん前にて成人式宣伝を行ないました。各党も総出で音を出し、選挙本番さながらの様相。「選挙の年」を実感。



漫画：安藤たい作

日本共産党が年末から取り組んでいる全戸対象の区政アンケートに続々と回答が寄せられています。1/16現在で790通にのびりました。

### あらゆる世代・階層に広がる「怨嗟」の声

「怨嗟」(えんさ)——うらみ嘆くこと。

アンケートでは暮らしと雇用について一番初めに尋ねています。解答にはあらゆる世代・階層からまさにこの「怨嗟の声」が寄せられました。

○「5年前に比べると生活がかなり悪くなっています。息子たちも働いていますが収入も非常に少なく、親元を離れた生活は出来ません。このまま日本はどうなってしまうのか、とても不安です」

○「所得税に消費税、事業税全部が上がり・・・休みなく働いているのに少しも楽にならない・・・税金や健保、年金を支払う為に働いているような気がする」(57歳女性自営業)

○「年金生活の我々にこれ以上の負担をかける前に戻して欲しいです。できれば上がる前に戻してもらいたいです。生活が苦しくてたまりません」

このようにアンケートの回答は、ここ品川でも「貧困と格差」が、現役世代・若者・自営業者・お年寄り・女性など、あらゆる世代・階層に広がっていることを物語っています。

こういう時に政治、とりわけ区政に求められることは「貧困と格差を正す」「住民の暮らしと命を守る」という政治本来の仕事を移行に移すことです。共産党品川区議団はそういう立場から、昨年12月議会でも①耐震補強支援を区内全域・マンションに広げる②子どもの医療費無料化を中学まで広げる 以上二つの条例提案を行いました。ところが他党の態度といえ、②に生活者ネットが賛成した以外全ての会派が反対。いずれの条例案も否決になりました。国と足並みをそろえて庶民・弱者に冷たい政治を行なう区政に対し、今こそ議会には結束してモノを申し出ていく態度こそが求められているのではないのでしょうか？

**安藤たい作プロフィール** '74年 宮城県仙台市生まれ32歳。'97年 国立宮城教育大卒。'98年 漫画家を志し上京、漫画家アシスタント。'02年 青年誌奨励賞受賞。大崎駅西口駐輪場改善運動に取り組む。4年の派遣労働経験を経て、'06年の品川区議会議員補欠選挙で初当選。趣味/漫画・イラストを描くこと、キャッチボール。大崎在住。

**安藤たい作ニュース** は、「品川区議会における政務調査費の交付に関する規定」で定める用途基準「広報・活動費」に基づき、政務調査費によって発行されています。